

令和6年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	28	学校名	仙台市立東長町小学校	校長名	田中 孝子
------	----	-----	------------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ 食品残さりサイクル



2 取組の紹介

日常的に自然に接する機会が少ないという児童の実態から、わかたけ学級では、1年を通して花や野菜を育てる活動を行ってきました。教室から見える小さな花壇(畑)を児童は、「わかたけ農園」と名付け、季節の野菜を育てています。4月中旬に、土を耕し堆肥や石灰を入れて植え付けの準備をしました。

今年は、リサイクル堆肥(杜のめぐみ)や有機肥料を使用し、それらが何からできているかについても学習しました。5月上旬には、茄子、きゅうり、トマトなどの夏野菜を中心に、サツマイモやサトイモ(昨年収穫した種芋)も植えました。「野菜を育てよう」の学習では、児童は、自分たちで育ててみたい野菜を選びました。今年は、さらに担当野菜のリーダーを決め活動に取り組みました。リーダー制にしたことで自分の担当する野菜を調べたり、意欲的に観察・記録をしたりする姿がみられました。

3 取組の成果(児童生徒の変容)

4月中旬の土づくりでは、学校給食生ごみを堆肥化したリサイクル堆肥「杜のめぐみ」、牡蠣殻石灰、牛糞などの肥料を使いました。土に混ぜる前に、「これは何からできているのでしょうか」とクイズを出し、みんなで考えました。袋に表記されていた「学校給食生ごみ」の文字を見つけ給食の食べ残しや野菜くずであることを知り牛や牡蠣の貝殻の絵をヒントに真剣に考えていました。答えを知り、はじめは驚いていた児童も慣れてくるとにおいをかいだり触ったりしていました。「これが給食ののこり?」、「牛さんありがとう」、「地球にやさしい肥料」、「SDGsだ!」などたくさんのリアクションを見たり、素直な感想を聞いたりすることができました。

6月中旬に、わかたけ農園で育てたきゅうりや玉ねぎを使った給食が提供されることになりました。給食室前に児童の活動の様子や育てた野菜の写真が紹介され、昼の放送でも栄養士の先生が全校児童に紹介してくれました。自分たちが育てた野菜がはじめて給食で使われることに大興奮でした。

野菜の贈呈式には、校長先生をはじめ給食にかかわる多くの職員の方々も参加して下さいました。「上手に育てたね」「すごいね」「立派な野菜だね」などのあたたかい言葉をたくさんかけてもらいました。児童は、「暑い日も毎日水をかけたんだよ」とか「みんなに食べてもらえてうれしいです」と少し照れながらも誇らしげに話をしていました。一生懸命育てたものを食べてもらう喜びを知り、給食も残さず食べたり、食べられる量を配食したりして食べ残しを意識する姿も見られるようになりました。

11月中旬にサツマイモやサトイモを収穫し焼き芋を作りました。小さくなった炭や灰を見ていた児童が「何かに使えないかな」と気付きつぶやく姿もみられました。翌日、冷えた炭を更につぶし石灰や燐炭のかわりに畑に蒔きました。



給食の残りを肥料にした、杜のめぐみで育てた野菜が給食のメニューに生まれ変わりました。児童は給食の食品残さりサイクルを実践し、体験を通じて食への関心が更に高まりました。